

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
 第480号 2022年3月25日
 発行者代表 吉永幸司
 連絡先 大津市柳川2-11-5
 TEL 077-522-1008
 発行所 滋賀児童文化協会
 NPO 現代の教育問題研究所

「小学校教育と私」 阿達 航太

はじめまして、阿達航太と申します。私は吉永先生が当時校長先生を務めておられた京都女子大学附属小学校を2010年に卒業し、灘中学校・高等学校を経て、現在東京大学医学部の6年生です。

私はもうすぐ大学を卒業し医師になる予定の身ですが、自分の将来について色々と考える機会が以前よりも増え、その中で「自分はなぜ医師になりたいのか？」ということも改めて考え直すようになりました。

医師という職業は、生物学というサイエンスの側面があるのほもちろんのことですが、一方で、それだけで医療が成立するわけでも

ないということや授業や病棟実習を通して痛感しています。まだ医師でもない私が申し上げるのは大変僭越ですが、患者さんの感情に配慮したコミュニケーションなど、人と人との関わり合いという重要な側面が医療にはあると感じます。この両者が必要不可欠で、どちらか一方でも欠けてはいけないというところに私は強い魅力を感じているのだと改めて自分で気が付きました。

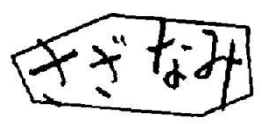
このようなことを考えている中でふと気が付いたのですが、私は「人」が好きなのだらうと思えます。小さい頃から、小説を読んだり主人公の住む世界を覗いてみたり

色々な場所の写真を見て地元の人の生活を想像したりすることが好きでした。大学生になってからも、アルバイトとして、生徒との対話が重要な塾講師を選びました。自分の周りの人や環境に興味を持つ性格が知らず知らずのうちに養われていたのだと思います。

そして、この性格の形成に大きく関わっていたのが間違いなく小学生時代ではないのかと思うのです。当時まさしく吉永先生が赴任されて「国語力は人間力」の教育が始まり、その中で、新たに様々な言葉や文章を読みました。あのときに、新たな言葉を知ることでコミュニケーションの幅が広がること、詩や小説を読むことで自分の知らない世界の住人に触れられること、そして何よりそれらが楽しいことであると知ったのだと思います。

このような経験を通し、最近になって、国語とは究極的には人と交流することと言えるのではないかとさえ思っております。卒業して10年以上経って、当時は気付くことのできなかつた「国語力は人間力」の奥深さに触れ、改めて当時の教育に感謝しております。

(東京大学医学部医学科6年生)



▼学習道具に一人一台のタブレットがある元にあることで授業の様子が変化が見られる。その一つに、グループの話合いが多くなったことがある。教師と発表する子とのやりとり

と、それを聞くという形態から、子ども同士で話し合う時間が多くなったことである。特にひとり学習の後、カードを使って説明をする、あるいはノートを使って説明をする、あるいはノートをデータとして活用する学習は、必然的に、話し合いが生まれる。▼話し合いとは「あるひととき、時の流れを共有して、互いにいのちのひとこまを出し合って、人間と人間とが、じかに触れ合う」(大村はま)ことである。とすれば、データをもとに、活発な話し合いの姿がある最近の授業は、望ましい方向であるといえる。それは、「わからないこと」を質問する、あるいは、同じ考えであることを確認をする活動が多くなっていることからもわかる。▼一方、国語科が育てたいという「話し合い」「対話」を意識して授業が仕組まれているかどうかという視点で見ると、さらに研究と実践を積み上げることが必要であろう。なぜなら、話し合いや対話が新しいものを生み出すという経験を通して、学習内容が深まることに気づかせ、正しく深く聞く力を付けるといふ具体的活動が見えないからである▼新しい形の話し合い・対話の姿は子どもの中にある。深い子ども理解が鍵になると思うこの頃である。

(吉永 幸司)

ICTを活用した
「話す・聞く」の学習
北川 雅士

国語科の学習で資料を効果的に活用してスピーチを行うことをねらいとした学習に取り組んだ。今年度はGASスクール元年ということで、6年生では、学習の中にもどのようにICTを取り入れると有効なのかを各教科で試行錯誤しながら学習を進めてきた。この学習でも一人一台のタブレットを使用したスピーチの学習に取り組んだ。導入で学級の子どもたちにも自分のスピーチをつけて聞いたことあります。か。するとほとんどの子どもは「ない」と答えた。そこでまずは学級で決めたスピーチの話題について簡単なスピーチメモを作り、タブレットで自分のスピーチを録画し聞いてみることにした。子どもたちの反応は面白そうと自分の声を聞くのが嫌だというのが半々くらい。練習なので撮り直しはなしということも確認してタブレットで記録し、自分のスピーチを聞いたスピーチやマイクを通じた自分の声を聞くというのは新鮮だったようで、何度もスピーチを聞き直して改善点や課題を見つけていく姿が印象的だった。

子どもが感じた課題には大きく2種類あり「自分のスピーチの姿勢や声の大きさにすること」と「スピーチの内容について」が挙げられた。教科書で単元の学習が流れた確認をしていることもあり、「教科書のように資料を使う」と説明がしやすいんじゃないか」という意見は子どもたちから出てきたので、改めてスピーチの構成を考へることになった。①録画した自分のスピーチをもっと伝えたいことが相手に伝わるように工夫しよう。②資料を使うことで「わかりやすい」と思えるスピーチにしようという3つをポイントにしてスピーチを改善していった。学習のまとめでは、改めてスピーチを記録し、始めのスピーチと比較することで、自分のスピーチがどのように変わったのか、資料の使い方などという点を振り返り、違い、資料が「わかりやすい」スピーチにつながっているのかを互いに話し合った。

今年度1年間タブレットを活用した学習の方法に取り組んできたが、良かったなと思えるのは、タブレットやICTを活用することで子どもたちの学習意欲が大きく変化するという点についてだ。この実践でも普段スピーチや意見を言うのも難しい子どもがタブレットの画面に向かっただけで「学習が楽しい」「これまではスピーチがいやだったけど、自信がもてるようになった」「これまではスピーチがいやだったけど、自信がもてるようになった」と書いていた。「画面越しのスピーチ」で終わってよかったのかという課題はあるものの、ICTを活用することで、これまでとは違った学習課題の持ち方ができたのではないかと思う。6年生は今使用しているタブレットを中学校に持ち上るまで聞いている。今回の動画はタブレットに保存してあり、時々見返しては、中学校でのスピーチにつなげてくれると嬉しい。

(彦根市立城南小学校)

提案しよう、
言葉とわたしたち
西條 陽之

「提案しよう、言葉とわたしたち」(光村五年)はスピーチを通して、相手に何らかの行動を呼びかけるような提案をすることを目指す話すこと・聞くことの単元である。自分の考えを話したい、説得力を持たせて伝えたいという思いを引き出せるようことを目標に実践を行った。

①生活経験の中での言葉について見つめ直す。

子どもたちから出された課題には、「相手に話を聞いてもらえない」「や「素直に謝れない」「長い文を話すことが苦手」といった実生活で本当に困った、あるいは困っている、自分の感情の伴った経験が具体的に出された。逆に、敬語の使い方やら抜き言葉などはこちらが提案するまで出ることにはなかった。

このことは、普段から言葉に着目させる経験を積み上げられていないという反省点であり、コロナ禍で話し合いや人前で話す経験が大幅に減った代償であるとも言える。ともあれ子どもたちは自分が

課題だと思ふことを素直に受け入れて、対処法を自分で考えたり、調べたりしていた。

②説得力を持たせる資料作り

アンケートや資料作りには、タブレット端末が有効活用できた。アンケートをノートアプリで作成し印刷する子もいれば、クラス共有をして直接書き込んでもらう子もいた。もちろんタブレット端末に固執することなく、一人ひとりに直接インタビューを実施する子もいた。

算数科でNumbersを使って集計をした経験を活かしてほとんど自力でグラフを作成することができた。絵が得意なら困った場面を漫画にしたり、フリップに直接字を書いて提示する子もいた。デジタルにしるアナログにしる、資料作りのどの場面でも、自分にあった方法を選択できることに価値があると考える。

一人一台のタブレット端末を運用して一年。タブレットで学習を変えようというよりも、子どもたち一人一人が自分らしく表現したり、それを認め合ったりすることが尊重されることが求められる時代になっているのではないだろうか。

(大津市立小野小学校)

基礎の徹底

川端 由起

「想像力のスイッチを入れよう」を今年に入ってから実践しました。5年生最後の説明文の題材になり、6年生の論説文を学習する上での大切な教材だと言えます。

4年生からの持ち上がりの子どものので、文の構成、筆者の言いたいことは何なのかまでは児童は初読をした段階である程度理解してました。昨年度説明文とは何なのか、筆者の言いたいことと要点はどこに書かれているのかを徹底的に学習した成果だと思えます。ただ、今回の題材は、筆者の言いたいことを複数の事例を使って述べているので、そこは理解出来なかった児童も多く、丁寧に学習しました。

私が次に行った実践は、本文の要旨を書くことでした。これは、想像力、スイッチが何なのかを理解できた児童から仕上げていくことができました。例えば、「あえられた情報を事実の全てだと受け止めるのではなく、頭の中で「想像力のスイッチ」を入れてみるこ

とが大切なのである」この文の大切さにいち早く気づけた児童は、要旨も素早く的確にまとめることができました。

ここで思ったのは、国語科は、学習指導要領上では、教えなければならぬことが多くあります。しかし、説明文、物語文ではある程度型が存在し、その型を学年相応に合わせて、毎回教材毎に教えることが大切なのではないかと考えました。そうすることで、文章が複雑になっても、基本に立ち戻ることにより、文のおおよその流れが理解でき、筆者の主張が理解できるようになると思いました。その説明文の基本の「キ」を押さえずに、今回は「ウナギ」の話です、今回は「メディア」の話です、と新しい話題をふって、自力で解決してね、だけでは、国語嫌いで作文嫌いの児童がただ増えるだけだと感じました。

学習は積み重ねのものであり、国語の力をつけるのが最も長い年月がかかります。読書、学級会、ミニ作文、毎時間の発表、これらの学習全てが国語力を伸ばす鍵だと私は思います。これからを生きて子どもたちのために丁寧に学習していきたいです。

(草津市立志津小学校)

学習用語を定義する

川端 大介

先日、二年生の国語の教科書内容の指導を一通り終えた。ふと、考えたことがあった。「いったい、どんな力が子どもたちについていたのだろう。」ということである。

今年度、クラスでは活発に話し合いが行われたように感じる。今年度は物語文と説明文の指導に力を入れた。中でも物語文では、子どもたちがこだわって話し合う場面が多かった。叙述に基づいて自分の体験と照らし合わせて読みとり、登場人物の気持ちやガラツと変わった所はどこかの解釈を交流したりした。

なぜ、子どもたちが活発に話し合いを行うことができたのかを自分なりに分析してみた。複数あるが、一番の要因が見つかったように感じる。

それは、『学習用語を定義する』ことである。『お手紙』の登場人物は何人ですか？『スーホの白い馬』の登場人物は何人ですか？と問われたら、明確に答えられる子どもたちに育っているだろうか。こんな問いは愚問だと言われればそれまでだが、案外答えられない子どもたちが多いのではないかと考える。

私は初任の時、国語科、物語文における「登場人物」の概念が分からなかった。しかし、単元の初めに、登場人物を検討する際、教室には少なからず混乱が起こったように感じる。

この「登場人物」の定義が子どもたちに指導できておらず曖昧だ

ったため混乱が生じた。そんな中、中心人物や対役、脇役の検討などできるはずがない。話し合いなどできるはずがないと思った。

登場人物とは「物語の中で、人間と同じように考えたり行動したりする、人や物のこと。」これを、登場人物の定義として子どもたちに教えてからは、どの子どもも自分の力で登場人物を本文から見つけ出すことができるようになった。他にも、「お話を劇にした時、役が必要になるもの」も子どもたちにとっては分かりやすい。

「お手紙」の中で『がまくんとかえるくん』のどちらが中心人物ですか？と発問することで、がまくんとかえるくんの関係性や人物像について多様な解釈を交流することができた。

お話を読むための明確な定義は『学習のものさし』とも言えようか。その『ものさし』を子どもたちが手にした時が作品に対して主体的に関わっていくことができるようになるのでないかと今の自分は未熟ながら考える。

学習用語を定義することの大切さに気づき、用語を子どもたちと共有し、問いを発することで子どもたちの話し合いが活発になったのだろう。物語文を豊かに読める子どもたちが育ち、豊かな心を育てて幸せな人生を歩んでいける一助になれるように今後も指導していきたい。

次年度、担任する子どもたちがいくつの『ものさし』を持っているのかを楽しみにしながら、国語授業の充実に向けて励んでいきたいと強く感じた。

(守山市立 立入が丘小学校)

本に親しむ
北島 雅晴

自由読書の時間。席を立って、友だちの読んでいる本を見に行く。隣の席の人に小声で話しかける子。しばらく読んではいるが、すぐに本を机に置いてしまう子。なかなか読書習慣が定着しない。「もう五年生だから、二・三十分は、集中して読書ができないのだからか。」と嘆いていてもしかたがない。何らかの手を打たなければと思って実践したことを紹介したい。

① 動物物語を読む

「大造じいさんとガン」の学習を短時間で終え、その後でシートンと椋鳩十の作品を読むという学習を行った。

「大造じいさんとガン」を二度読んだ後で、この作品の魅力を尋ねてみた。

○残雪の行動がすばらしい
○大造じいさんの優しさが伝わってくる

○大造じいさんと残雪との戦いがわくわくする

といった三つの視点から、魅力をとらえる子がほとんどであった。

(その他、残雪が飛び立っていく場面が心に残る、といった感想もあった。)

これらの発見を活かして、動物のすばらしさを見つけてから読む。

・動物と人間とのつながりに気を付けて読む。

・心に残る場面を見つける。

といった視点から、シートンや椋鳩十の作品を読むという課題を設定した。

○母親のくまが子どもを助けるために川に飛び込む場面が心に残りました。母親の子どもを思う気持ち、この物語の魅力だと思いました。「月の輪クマ」

○ロボの知恵と強さが、この物語の魅力だと思えます。ロボと残雪は似たところがありました。

「ロボ・カランポーの王様」
一作品読み終わったら、このような「魅力カード」を作るという学習を行った。ほとんどの子が三作品読むことができた。

「他の作品も読みたい。」
という子が出てきたのも収穫であった。

② 名作を読む
「世界名作童話全集」(ポプラ社)が、学校の図書館に四十冊ほどある。「たから島」「十五少年漂流記」「小公女」といった、今まで読み継がれてきた作品ばかりが収められている。本来の翻訳版とは違って、中学年くらいの子が読むことができるように文章量が縮小されている。どの作品も文字が大きく、百数十ページほどにまとめられている。

「一冊読むのに、二時間あればじゆうぶん。」
と、ある子が話していた。以前は、三・四年生の子に読ませていたが、読書習慣があまり身につけていない五年生にとっては適していると考えた。一人ひとり静かに読書をし、学習の最後五分間で記録を書くというきわめてシンプルな学習である。

○今「十五少年漂流記」を半分ちよつと読み終わりました。鳥には悪い人たちがいるということが分かり、これからどうなるかが楽しみです。

○「ハイジ」を読んでいます。前、テレビで見たことがあるけど、本を読むのも楽しいです。ハイジが周りの人を明るくするところがいいなと思いました。

物語がどのように進んでいくのか、期待をしながらどんどん読み進めていく姿が見られる。教室が静かな雰囲気にも包まれるのが心地よい。

「先生、家に持って帰って読んでもいいですか。」
と尋ねに来る子も出てきた。いざ、気に入った本の中から、本来の翻訳本を手にとってくれることを期待している。
(栗東市立葉山小学校)

編集後記

▼二月例会(四七九回)

株による感染急拡大という状況を考慮して、提案に対してメールで感想・意見を伝えるという方法で行った。提案は弓削裕之さん(京女附属小)提案は弓削裕之さん(京女附属小)提案は弓削裕之さん(京女附属小)理由はおくろう。▼提案の題材設定の理由は、(ふかい)、「僕っていいところありますか」と聞いてきたAさん)から始まる。2年生に進級を意識し始めた子のつづきを見逃さず、言葉の力で強い心(生きる力)を育てることを目的とした実践。年間の研究テーマも踏まえて「ICTの活用が、自分の良さに気づき、新しい言葉を増やすきっかけになる」ということが主な内容。▼具体的な学習活動①縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く②縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く③縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く④縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑤縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑥縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑦縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑧縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑨縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑩縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑪縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑫縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑬縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑭縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑮縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑯縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑰縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑱縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑲縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く⑳縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉑縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉒縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉓縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉔縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉕縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉖縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉗縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉘縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉙縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉚縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉛縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉜縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉝縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉞縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㉟縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊱縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊲縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊳縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊴縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊵縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊶縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊷縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊸縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊹縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く㊺縄跳びをがんばって自分の想像し、はげましの言葉を書く

(吉永幸司)